

主の食卓に招かれた人は幸い



ミサ聖祭の式次第

ミサ聖祭

『イエスは彼らに言われた、「わたしは苦しみを受ける前に、あなたがたとこの過越の食事をしようと、切に望んでいた。』』

ルカ 22:15

ミサ聖祭は、カトリック教会において行われる最も聖なる祭儀です。この祭儀は、主イエス・キリストの最後の晩餐に由来しています。イエス・キリストは十字架に付けられる前の夜に行われた食事のとき、パンとぶどう酒の杯を取り、感謝の祈りをささげてから弟子に与えて、「これは、あなたがたのために渡されるわたしのからだである。これは、わたしの血の杯、あなたがたと多くの人のために流されて、罪のゆるしとなる新しい永遠の契約の血である。これをわたしの記念として行いなさい。」と言われました。これによって主イエスは、ご自分をささげられると同時に、ご自分の受難と死を予告され、その意義を説明されました。その時以来、キリストの教会は主イエスのことばに従って、救いをもたらしたキリストの死と復活を想起しながら、最後の晩餐の式を繰り返し、キリストの愛の奉獻(聖なるいけにえ)を記念することによって、それを再現しています。

信者はミサの間に、神のことばである聖書の朗読を聴き、この二千年前と同じ食卓にあずかり、キリストのからだである聖別されたパン(ご聖体)を拝領します。こうして、キリストの死と復活の記念であるこの祭儀に参加することによって、私たちを最後まで愛し、私たちのために御自分の命をささげてくださった主イエスに心を合わせ、愛の交わりをもちます。

ミサ聖祭を祝うことによって、私たちは、神が与えてくださったすべての賜物、とくに創造、あがない(救いのわざ)、聖化に感謝します。それで、ミサは、「感謝の祭儀」とも呼ばれています。

ミサに参加することによって私たちは、神に感謝と賛美をささげ、キリストと共に自分自身を奉獻して、神との完全な一致を目指します。そのため、ミサは神に対する真の愛の実践と真の礼拝であるのです。

「私たちの救い主は、渡されたその夜、最後の晩さんの時に、ご自分のからだと血によるエウカリスチアのいけにえを制定された。それは、十字架のいけにえをご自分の再臨まで世々に永続させるためであった。これによって、主は愛する花嫁である教会にご自分の死と復活の記念を託された。この記念は、いつくしみの秘跡、一致のしるし、愛のきずなであり、『キリストが食され、心は恩恵に満たされ、将来の栄光の先取りが与えられる』過ぎ越しの祝宴である。」(典礼憲章47)

開祭

式次第 説明

◆ 入祭の歌と行列

☆（会衆起立）

◆ あいさつ

司祭 父と子と聖霊のみ名によつて。

会衆 アーメン。

司祭 主イエス・キリストの恵み、神の愛、

聖霊の交わりが皆さんとともに。

会衆 また あなたとともに。

◆ 回心の祈り（第一形式）

司祭 皆さん、聖なる祭儀を行う前に、

わたしたちの罪を認め、ゆるしを願ひましょう。

（短い沈黙のひとときをとる）

司祭 全能の神と、

会衆 兄弟姉妹の皆さんに告白します。

わたしは、思い、ことば、行い、怠りによつて

たびたび罪を犯しました。

聖母マリア、すべての天使と聖人、

そして兄弟姉妹の皆さん、

罪深いわたしのために神に祈ってください。

司祭 全能の神、いつくしみ深い父が

わたしたちの罪をゆるし、

永遠のいのちに導いてくださいますように。

会衆 アーメン。

開祭に伴う儀式の目的は、一つに集まつた信徒が一致すること、また、神のことばを正しく聴き、感謝の祭儀を相応しく執行するために心を準備することです。

集まつた会衆が司式者や奉仕者を迎え、感謝と賛美をささげる前に心を一つにするために入祭の歌を歌います。

祭壇は、キリストを表す象徴です。司祭と奉仕者が祭壇に向かつて礼をするのは、キリストに対する私たちの尊敬と愛を表すためです。

司祭はあいさつによつてキリストが共におられることを意識させ、この日の典礼を説明します。

回心の祈りによつて、参加者は、自分が弱くて、罪深い人間で、神に近づくには相応しくないことを認め、ゆるしを願ひます。そして、罪のゆるしを受けて、清い心をもつてミサに参加することができ

ます。
回心の祈りによつてゆるされるのは、小罪だけです。大罪をゆるしていただくためには、ゆるしの秘跡を受ける必要があります。

◆ いつくしみの賛歌（キリエ）

先唱 主よ、いつくしみを。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

先唱 キリスト、いつくしみを。

会衆 キリスト、いつくしみをわたしたちに。

先唱 主よ、いつくしみを。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

◆ 回心の祈り（第二形式）

司祭 皆さん、聖なる祭儀を行う前に、

わたしたちの罪を認め、ゆるしを願ひましょう。

（短い沈黙のひとときをとる）

司祭 打ち砕かれた心をいやすために遣わされた主よ、

いつくしみを。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

司祭 罪びとを招くために来られたキリスト、いつくしみを。

会衆 キリスト、いつくしみをわたしたちに。

司祭 父の右の座にあって、わたしたちのために

とりなしてくださる主よ、いつくしみを。

会衆 主よ、いつくしみをわたしたちに。

司祭 全能の神、いつくしみ深い父が

わたしたちの罪をゆるし、

永遠のいのちに導いてくださいますように。

会衆 アーメン。

いつくしみの賛歌は、主キリストに罪のゆるしを願う歌でもあり、またいつくしみ深い主をたたえる賛歌でもあります。

◆ 栄光の賛歌（グロリア）

司祭 天には神に栄光、
会衆 地にはみ心にかなう人に平和。

神なる主、天の王、全能の父なる神よ。

わたしたちは主をほめ、主をたたえ、

主を拝み、主をあがめ、

主の大いなる栄光のゆえに感謝をささげます。

主なる御ひとり子イエス・キリストよ、

神なる主、神の小羊、父のみ子よ、

世の罪を取り除く主よ、いつくしみをわたしたちに。

世の罪を取り除く主よ、

わたしたちの願いを聞き入れてください。

父の右に座しておられる主よ、いつくしみをわたしたちに。

ただひとり聖なるかた、すべてを越える唯一の主、

イエス・キリストよ、

聖霊とともに父なる神の栄光のうちに。

アーメン。

◆ 集会祈願

司祭 祈りましょう。

☆（「聖書と典礼」のしおりを参照）

（しばらく沈黙のうちに祈る）

・ ・ ・ 聖霊による一致のうちに、あなたとともに神であり、

世々とこしえに生き、治められる御子、

わたしたちの主イエス・キリストによって。

会衆 アーメン。

聖霊のうちに集う教会は、栄光の賛歌によつてゆるしの恵みを感謝し、神なる父といけにえの小羊であるキリストをたたえます。

この賛歌のことばは他のことばに変えることができません。待降節と四旬節には歌いません。

集会祈願

司祭によつて祈るように招かれた信徒は、沈黙の内に自分の祈り（ミサに参加する意向）を思い起こし、司祭はそれの一つの祈りに「集めます」。

この祈願はこの日のミサの意向や目的と密接に結びついた内容を持ち、ミサの性格を明確に表します。会衆は集会祈願に心を合わせ、それに同意し、応唱「アーメン」によつて、この祈願を自分のものとしします。

ことばの典礼

「聖書と典礼」のしおりを参照

☆（会衆着席）

◆ 第一朗読

朗読者 神のみことば。

会衆 神に感謝。

（短い沈黙のひとときをとる）

◆ 答唱詩編

◆ 第二朗読

朗読者 神のみことば。

会衆 神に感謝。

（短い沈黙のひとときをとる）

◆ アレルヤ唱（詠唱）

☆（会衆起立）

◆ 福音朗読

司祭 主は皆さんとともに。

会衆 またあなたとともに。

司祭 ○○○による福音。

会衆 主に栄光。
（自分の額、口、胸に十字架のしるしをする）

司祭 主のみことば。
会衆 キリストに賛美。

☆（会衆着席）

◆ 説教

（短い沈黙のひとときをとる）

ことばの典礼はみことばによるキリストとの出会いです。

聖書が教会で朗読される時には、神ご自身がその民に語られ、キリストはご自身のことばのうちに現存して、福音を告げられます。

答唱詩編は、第一朗読のことばを味わい、黙想するための歌です。

「アレルヤ」は「主をほめたたえよ」を意味するヘブライ語の単語です。アレルヤ唱は、福音朗読を通して私たちに語りかける主を迎える歌です。

四旬節にはアレルヤ唱の代わりに詠唱が歌われます。

◆ 信仰宣言（クレド）

☆（会衆起立）

司祭 天地の創造主、

会衆 全能の父である神を信じます。

父のひとり子、
わたしたちの主イエス・キリストを
信じます。

主は聖霊によってやどり、

おとめマリアから生まれ、

ポンティオ・ピラトのもとで

苦しみを受け、十字架につけられて死に、

葬られ、陰府に下り、

三日目に死者のうちから復活し、

天に昇って、

全能の父である神の右の座に着き、

生者と死者を裁くために来られます。

聖霊を信じ、聖なる普遍の教会、

聖徒の交わり、罪のゆるし、

からだの復活、

永遠のいのちを信じます。アーメン。

◆ 共同祈願（信者の祈り）

☆（「聖書と典礼」のしおりを参照）

☆（会衆着席）

司祭 わたしは信じます。

会衆 唯一の神、全能の父、天と地、見
えるもの、見えないもの、すべてのも
のの造り主を。わたしは信じます。

唯一の主イエス・キリストを。主は
神のひとり子、すべてに先立つて父よ
り生まれ、神よりの神、光よりの光、

まことの神よりのまことの神、造られ
ることなく生まれ、父と一体。すべて

は主によって造られました。主は、わ
たしたち人類のため、わたしたちの救

いのために天からくだり、聖霊によっ
て、おとめマリアよりからだを受け、

人となりました。ポンティオ・ピラ
トのもとで、わたしたちのために十字

架につけられ、苦しみを受け、葬ら
れ、聖書にあるとおり三日目に復活

し、天に昇り、父の右の座に着いてお
られます。主は、生者と死者を裁くた

めに栄光のうちに再び来られます。そ
の国は終わることがありません。

わたしは信じます。主であり、いの
ちの与え主である聖霊を。聖霊は、父

と子から出て、父と子とともに礼拝さ
れ、栄光を受け、また預言者をおし

て語られました。
わたしは、聖なる、普遍の、使徒
的、唯一の教会を信じます。罪のゆる
しをもたらず唯一の洗礼を認め、死者
の復活と来世のいのちを待ち望みま
す。アーメン。

神のことばの説明であ
る説教の目的は、ミサ
の参加者がキリストご
自身の決定的な救いの
秘義をよりよく理解す
ることです。

参加者は、信仰宣言
（「使徒信条」「上
段」、または、「ニケ
ア・コンスタンチノー
プル信条」「下段」）を
行うことによって、神
のことばに応えます。

共同祈願によって信徒
は、信仰を生きるため
に神の支えを求め、他
人に対する関心や連帯
性を表します。共同祈
願において信者は自分
の祭司職の務めを果た
します。

共同祈願が終わると一
同は着席し、奉納の歌
が始まります。

感謝の典礼

◆ 奉納の歌と奉納行列

◆ パンを供える祈り

司祭

神よ、あなたは万物の造り主、

ここに供えるパンはあなたからいただいたもの、

大地の恵み、労働の実り、

わたしたちのいのちの糧となるものです。

会衆

神よ、あなたは万物の造り主。

◆ ぶどう酒の準備

◆ カリスを供える祈り

司祭

神よ、あなたは万物の造り主、

ここに供えるぶどう酒はあなたからいただいたもの、

大地の恵み、労働の実り、

わたしたちの救いの杯となるものです。

会衆

神よ、あなたは万物の造り主。

◆ 清め

◆ 祈りへの招き

司祭

皆さん、ともにささげるこのいけにえを、

全能の父である神が受け入れてくださるよう祈りましょう。

会衆

神の栄光と賛美のため、またわたしたちと全教会のために、

あなたの手を通しておささげするいけにえを、

神が受け入れてくださいますように。

◆ 奉納祈願

司祭

・・・わたしたちの主イエス・キリストによって。

会衆 アーメン。

☆（会衆起立）

感謝の典礼は、聖体によるキリストとの
出会いです。

奉納の行列

信者の代表は、奉仕者の迎えを受けて、

神の恵みと人間の働きの実りであるパン

とぶどう酒をささげ、頂いた恵みに感謝

すると共に、自分を神にささげます。

奉納の行列が終わったら、教会の維持や

支援を必要とする人のための献金が行わ

れます。

司祭がパンとぶどう酒を神に供え、それ

をキリストのからだに血に変えていただ

くことによって、私たちが神の命を頂

き、神性にあずかることができるように

祈ります。

奉献文（エウカリスティアの祈り）

◆ 叙唱前句

司祭 主は皆さんとともに。

会衆 またあなたとともに。

司祭 心をこめて、

会衆 神を仰ぎ、

司祭 賛美と感謝をささげましょう。

会衆 それはとうとい大切な務め（です）。

◆ 叙唱

司祭 聖なる父、全能永遠の神、・・・

・・・ 終わりにほめ歌います。

◆ 感謝の賛歌（サンクトウス）

先唱 聖なる、

会衆 聖なる、聖なる神、すべてを治める神なる主。

主の栄光は天地に満つ。

天には神にホザンナ。

主の名によって来られるかたに賛美。

天には神にホザンナ。

◆ 第一奉献文 いつくしみ深い父よ、・・・（10 ページ）

◆ 第二奉献文 まことに聖なる神、・・・（17 ページ）

◆ 第三奉献文 まことに聖なる父よ、・・・（20 ページ）

奉献文は、祭儀の中心および頂点です。この祈りの意義は、信者の集まり全体が自らをキリストに結び合わせて、神の偉大なわざを宣言し、いけにえを奉献することにあります。

叙唱前句によって、キリストご自身の現存のしるしであり、唯一の祭司キリストの代理者である司祭は、参加者に心を神に向けて、神に感謝と賛美をささげるように呼びかけます。

叙唱において司祭は、聖なる民全体の名によって、神である父の栄光をたたえ、救いのわざ全体のため、また、この日（祝祭、季節）の典礼に従って、それぞれの特別な理由のために感謝をささげます。この祈りは、参加者に神に感謝と賛美をささげる理由を表すものにもなっています。

感謝の賛歌は、天使たちが天上で神に歌っている栄光と賛美（イザ6・3）の歌です。それを繰り返すことによって、私たちは、天使たちと聖人たちの賛歌に声を合わせて、共に神の偉大さを誉め、救いのわざに感謝し、永遠の命の渴望と希望を強めるのです。群衆がイエスをエルサレムに歓迎した時に歌った言葉（マコ11・9）を付けることによって、イエス・キリストは、天上で賛美されておられる神と同じ方であることと、これからパンとぶどう酒の形においてイエスご自身が来てくださることを宣言します。

第一奉献文（ローマ典文）

司祭

いつくしみ深い父よ、

御子わたしたちの主イエス・キリストによって、
いまつつしんでお願いいたします。

この汚れのない聖なるささげものを受け入れ、
✠祝福してください。

わたしたちは、まず聖なる普遍の教会のために、
これをあなたにささげます。

全世界に広がる教会に平和を与え、これを守り、
一つに集め、治めてください。

教皇○○○○、

わたしたちの司教○○○○、

また、使徒からの普遍の信仰を正しく伝える
すべての人のためにこの供えものをささげます。

◆ 生者のための祈り

聖なる父よ、あなたに信頼する人々（○○○○）を
心に留めてください。

また、ここに集うすべての人を心に留めてください。

その信仰と敬虔な心をあなたはご存じです。

わたしたちとすべての親しい人々のために

この賛美のいけにえをささげ、

あがないと救いと平穩を願って、

永遠のまことの神、あなたに祈ります。

第一の奉献文は、初代教会にさかのぼりますが、その形は四世紀から六世紀の間に出来上がりました。トレントの公会議（1562年）から第二バチカン公会議後の典礼改革まで、ローマカトリック教会の唯一の奉献文でした。

取り次ぎの祈りで教会は、この祭儀が天と地の全教会、生ける人、死せる人、また教会の牧者である教皇、ミサ聖祭が行われている教区の司教、その司祭と助祭、ならびに全世界のすべての司教とその司教のもとにある教会との交わりのうちに行われていることを表明します。

「全教会の交わりの中で、・・・」に加える固有式文

主の降誕とその八日間中

全教会の交わりの中で、わたしたちは、
汚れないおとめマリヤによつて
世に救い主が与えられたこの聖なる夜（日）を祝います。
わたしたちはまず、神である主イエス・キリストの母、・・・

主の公現

全教会の交わりの中で、わたしたちは、
栄光のうちにあなたとともに永遠の神であるひとり子が、
まことの人間として、
見えるからだをもつて現れたこの聖なる日を祝います。
わたしたちはまず、神である主イエス・キリストの母、・・・

主の晩さんの夕べのミサ

全教会の交わりの中で、わたしたちは、
主イエス・キリストが、
わたしたちのために渡されたこの聖なる日を祝います。
わたしたちはまず、神である主イエス・キリストの母、・・・

復活徹夜祭から復活節第2主日まで

全教会の交わりの中で、わたしたちは、
主イエス・キリストが、
まことに復活されたこの聖なる夜（日）を祝います。
わたしたちはまず、神である主イエス・キリストの母、・・・

主の昇天

全教会の交わりの中で、わたしたちは、
御ひとり子が人となり、わたしたちの弱さを身に受けて、
あなたの栄光の右の座に高めてくださった
この聖なる日を祝います。

わたしたちはまず、神である主イエス・キリストの母、…

聖霊降臨

全教会の交わりの中で、わたしたちは、

聖霊が使徒たちの上に

炎の舌のような形で現れたこの聖なる日を祝います。

わたしたちはまず、神である主イエス・キリストの母、…

全教会の交わりの中で、

わたしたちはまず、神である主イエス・キリストの母、

栄光に満ちた終生おとめマリアを思い起こし、

聖ヨセフ、

使徒と殉教者、

ペトロとパウロ、アンデレ、

(ヤコブ、ヨハネ、トマス、ヤコブ、フィリポ、

バルトロマイ、マタイ、シモンとタダイ、

リノ、クレト、クレメンス、シスト、

コルネリオ、チプリアノ、ラウレンチオ、クリソゴノ、

ヨハネとパウロ、コスマとダミアノ)

そして、すべての聖人を思い起こします。

彼らのいさおしと取り次ぎによって、

わたしたちをいつも守り強めてください。

(わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。)

「わたしたち奉仕者とあなたの家族…」に加える固有式文

復活徹夜祭から復活節第2主日まで

聖なる父よ、

わたしたち奉仕者とあなたの家族の

この奉献を受け入れてください。

水と聖霊によつて新しく生まれ、

すべての罪のゆるしを受けた人々のためにも

これをささげます。

あなたの平和を日々わたしたちに与え、

永遠の滅びから救い、選ばれた者の集いに加えてください。

(わたしたちの主イエス・キリストによつて。アーメン。)

聖なる父よ、

わたしたち奉仕者とあなたの家族の

この奉献を受け入れてください。

あなたの平和を日々わたしたちに与え、

永遠の滅びから救い、選ばれた者の集いに加えてください。

(わたしたちの主イエス・キリストによつて。アーメン。)

神よ、この供えものを祝福し、受け入れ、

み心にかなうまことのいけにえとしてください。

わたしたちのために、最愛のひとり子、

主イエス・キリストの御からだと御血になりますように。

聖霊の働きを求める祈り(エピクレシス)

この特別な祈りによつて、教会は聖霊の力(第一奉献文において三位一体の神の力)を願い求め、人々の供えものが聖とされるよう、すなわち、キリストのからだと血になるよう、また、これを拝領することによつて、汚れのないいけにえが、それにあずかる人々の救いとなるよう祈ります。

主イエスは受難の前夜、
聖なる手にパンを取り、

全能の父、神であるあなたを仰ぎ、
賛美と感謝をささげ、裂いて、
弟子に与えて仰せになりました。

「皆、これを取って食べなさい。
これはあなたがたのために渡される
わたしのからだ（である）。」

☆（会衆は司祭とともに 合掌して深く礼をする。）

食事の後に同じように、
聖なる手に、このとうとい杯を取り、
賛美と感謝をささげ、
弟子に与えて仰せになりました。

「皆、これを受けて飲みなさい。

これはわたしの血の杯、
あなたがたと多くの人のために流されて
罪のゆるしとなる新しい永遠の契約の血（である）。
これをわたしの記念として行いなさい。」

☆（会衆は司祭とともに 合掌して深く礼をする。）

制定の叙述と聖変化

キリストの命令に従い、キリストご自身のことを述べることによって救いのわざ（キリストの唯一の完全な愛のいけにえと過ぎ越しの神秘）が行われます。それは最後の晩餐の再現です。パンとぶどう酒の本質が変わって、キリストのからだとキリストの血となるのです。キリストがパンとぶどう酒の外観のもとに祭壇の上に自ら現存されます。

救いのわざが今、ここで、過去のもではなく、現在のものになり、私たちがキリストを父である神にささげ、その奉獻にあずかることができるようになります。

聖体におけるキリストの現存は聖別のとくに始まり、その形態が存在する限り続きます。キリスト全体がそれぞれの形態のうちに、またその部分のうちに全体として現存されます。したがって、パンを裂いてもキリストが分割されることはありません。

◆ 記念唱（アナムネシス）

司祭 信仰の神秘。

会衆

主よ、あなたの死を告げ知らせ、復活をほめたたえます。再び来られるときまで。

司祭

聖なる父よ、

わたしたち奉仕者と聖なる民も、

いま、御子わたしたちの主キリストのとうとい受難、

死者のうちからの復活、

栄光に満ちた昇天を記念し、

あなたが与えてくださった たまものの中から、

清く、聖なる、汚れないいけにえ、

永遠のいのちのパンと救いの杯を、

栄光の神、あなたにささげます。

このささげものをいつくしみ深く顧み、

快く受け入れてください。

義人アベルの供えもの、太祖アブラハムのいけにえ、

また、大祭司メルキセデクが供えた聖なるささげもの、

汚れない いけにえを受け入れてくださったように。

全能の神よ、つつしんでお願いいたします。

このささげものをみ使いによつて、

あなたの栄光に輝く祭壇に運ばせてください。

いま、この祭壇で、

御子の聖なるからだと血にあずかるわたしたちが、

天の祝福と恵みで満たされますように。

（わたしたちの主イエス・キリストによつて・アーメン。）

◆ 死者のための祈り

記念とは、聖書的には、過去の出来事を単に想起することではなく、神が人間のために行われた偉大なわざを宣言することを意味します。これらの出来事を祝う典礼祭儀の中で、出来事は何らかの形で現存し、現在化されます。

記念（アナムネシス）で教会は、イエス・キリストの受難、復活、昇天の記念を行い、私たちを御父と和解させてくださる御子のささげものを御父にささげます。

しかし教会は、信者が汚れないいけにえをささげるだけでなく、自分自身をささげることを学び、キリストを仲介者として、日々神との一致と相互の一致の完成に向かい、ついには神がすべてにおいてすべてとなるようにと意図しています。

聖なる父よ、
信仰をもってわたしたちに先だち、
安らかに眠る人々（○○○○）を心に留めてください。

神よ、この人々とキリストのうちに眠りについたすべての人に、
慰めと光と安らぎをお与えください。

（わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。）

あなたの豊かなあわれみに信頼する罪深いわたしたちを、
使徒と殉教者の集いに受け入れてください。

洗礼者ヨハネ、ステファノ、マチア、バルナバ、

（イグナチオ、アレキサンドロ、マルチェリノとペトロ、

フェリタス、ペルペトウア、アガタ、ルチア、

アグネス、セシリア、アナスタシア）

そして、すべての聖人にならう恵みを、

わたしたちの行いによるのではなく、

あなたのあわれみによってお与えください。

聖なる父よ、

キリストによって、あなたはつねに このよいものを造り、

聖なるものとし、これにいのちを与え、祝福し、

わたしたちに与えてくださいます。

第二奉献文

司祭

まことに聖なる神、すべての聖性の源である父よ、いま、聖霊を注ぎ、

この供えものを聖なるものとしてください。

わたしたちのために、

主イエス・キリストの御からだと✠御血になりますように。

主イエスはすすんで受難に向かう前に、

パンを取り、

感謝をささげ、裂いて、

弟子に与えて仰せになりました。

「皆、これを取って食べなさい。

これはあなたがたのために渡される

わたしのからだ(である)。」

☆ (会衆は司祭とともに 合掌して深く礼をする。)

食事の後に

同じように杯を取り、

感謝をささげ、弟子に与えて仰せになりました。

「皆、これを受けて飲みなさい。

これはわたしの血の杯、

あなたがたと多くの人のために流されて

罪のゆるしとなる新しい永遠の契約の血(である)。

これをわたしの記念として行いなさい。」

☆ (会衆は司祭とともに 合掌して深く礼をする。)

第二奉献文は三世紀のヒツポリトスの『使徒伝承』にもとづき、古代教会でもっとも早い時期に出来上がったと思われる典札の型を参考にしたものです。

聖霊の働きを求める祈り(エピクレシス)

この特別な祈りによって、教会は聖霊の力を願い求め、人々の供えものが聖とされるよう、すなわち、キリストのからだと血になるよう、また、これを拝領することによって、汚れないいけにえが、それにあずかる人々の救いとなるよう祈ります。

制定の叙述と聖変化

キリストの命令に従い、キリストご自身のことばを述べることによって救いのわざ(キリストの唯一の完全な愛のいけにえと過ぎ越しの神秘)が行われます。それは最後の晩餐の再現です。パンとぶどう酒の本質が変わって、キリストのからだとキリストの血となるのです。キリストがパンとぶどう酒の外観のもとに祭壇の上に自ら現存なさいます。

救いのわざが今、ここで、過去のもではなく、現在のものになり、私たちがキリストを父である神にささげ、その奉献にあずかることができるようになります。

◆ 記念唱（アナムネシス）

司祭 信仰の神秘。

会衆 主よ、あなたの死を告げ知らせ、

復活をほめたたえます。

再び来られるときまで。

司祭 聖なる父よ、

わたしたちはいま、主イエスの死と復活の記念を行い、

み前であなたに奉仕できることを感謝し、

いのちのパンと救いの杯をささげます。

キリストの御からだと御血にともにあずかるわたしたちが、

聖霊によって一つに結ばれますように。

世界に広がるあなたの教会を思い起こし、

教皇○○○○、

わたしたちの司教○○○○、

すべての奉仕者とともに、

あなたの民をまことの愛で満たしてください。

◆ 死者のための祈り

（きょう）この世からあなたのもとに召された

○○○○（名）を心に留めてください。

洗礼によってキリストの死に結ばれた者が、

その復活にも結ばれますように。

聖体におけるキリストの現存は聖別のと
きに始まり、その形態が存在する限り続
きます。キリスト全体がそれぞれの形態
のうちに、またその部分のうちに全体と
して現存されます。したがって、パンを
裂いてもキリストが分割されることはな
いのです。

記念とは、聖書的には、過去の出来事を
単に想起することではなく、神が人間の
ために行われた偉大なわざを宣言するこ
とを意味します。これらの出来事を祝う
典礼祭儀の中で、出来事は何らかの形で
現存し、現在化されます。

記念（アナムネシス）で教会は、イエス・
キリストの受難、復活、昇天の記念を行
い、私たちを御父と和解させてくださる
御子のささげものを御父にささげます。

しかし教会は、信者が汚れのないいけに
えをささげるだけでなく、自分自身をさ
さげることが学び、キリストを仲介者と
して、日々神との一致と相互の一致の完
成に向かい、ついには神がすべてにおい
てすべてとなるようにと意図していま
す。

取り次ぎの祈りで教会は、この祭儀が天
と地の全教会、生ける人、死せる人、ま
た教会の牧者である教皇、ミサ聖祭が行

また、復活の希望をもって眠りについた
わたしたちの兄弟姉妹と、
あなたのいつくしみのうちに亡くなったすべての人を
心に留め、あなたの光の中に受け入れてください。

いま、ここに集うわたしたちをあわれみ、
神の母おとめマリアと聖ヨセフ、

使徒とすべての時代の聖人とともに、
永遠のいのちにあずからせてください。

御子イエス・キリストを通して、
あなたをほめたたえることができますように。

◆ 栄唱（23 ページ）

われている教区の司教、その司祭と助
祭、ならびに全世界のすべての司教とそ
の司教のもとにある教会との交わりのう
ちに行われていることを表明します。

第三奉献文

司祭

まことに聖なる父よ、

造られたものはすべて、あなたをほめたたえています。

御子わたしたちの主イエス・キリストを通して、

聖霊の力強い働きにより、

すべてにいのちを与え、聖なるものとし、

たえず人々をあなたの民としてお集めになるからです。

日の昇る所から日の沈む所まで、

あなたに清いささげものが供えられるために。

聖なる父よ、

あなたにささげるこの供えものを、

いま、聖霊によって聖なるものとしてください。

御子わたしたちの主イエス・キリストの

御からだと[✠]御血になりますように。

キリストのことばに従って、

いま、わたしたちはこの神秘を祝います。

主イエスは渡される夜、パンを取り、

あなたに賛美と感謝をささげ、裂いて、

弟子に与えて仰せになりました。

「皆、これを取って食べなさい。

これはあなたがたのために渡される

わたしのからだ(である)。」

☆ (会衆は司祭とともに 合掌して深く礼をする。)

第三奉献文は、初代教会の祈りや教父の文書を参考にして、第二バチカン公会議の後に作成された現代の献文です。

聖霊の働きを求める祈り(エピクレシス)

この特別な祈りによって、教会は聖霊の力を願い求め、人々の供えものが聖とされるよう、すなわち、キリストのからだに血になるよう、また、これを拝領することによって、汚れないいけにえが、それにあずかる人々の救いとなるよう祈ります。

制定の叙述と聖変化

キリストの命令に従い、キリストご自身のことばを述べることによって救いのわざ(キリストの唯一の完全な愛のいけにえと過ぎ越しの神秘)が行われます。それは最後の晩餐の再現です。パンとぶどう酒の本質が変わって、キリストのからだとキリストの血となるのです。キリストがパンとぶどう酒の外観のもとに祭壇の上に自ら現存されます。

救いのわざが今、ここで、過去のもではなく、現在のものになり、私たちがキリストを父である神にささげ、その奉獻にあずかることができるようになります。

聖体におけるキリストの現存は聖別のとくに始まり、その形態が存在する限り続きます。キリスト全体がそれぞれの形態

食事の後に

同じように杯を取り、

あなたに賛美と感謝をささげ、

弟子に与えて仰せになりました。

「皆、これを受けて飲みなさい。

これはわたしの血の杯、

あなたがたと多くの人のために流されて

罪のゆるしとなる新しい永遠の契約の血(である)。

これをわたしの記念として行いなさい。」

☆ (会衆は司祭とともに 合掌して深く礼をする。)

◆ 記念唱 (アナムネシス)

司祭 信仰の神秘。

会衆 主よ、あなたの死を告げ知らせ、

復活をほめたたえます。

再び来られるときまで。

司祭

聖なる父よ、

わたしたちはいま、

御子キリストの救いをもたらす受難、復活、昇天を記念し、

その再臨を待ち望み、

いのちに満ちたこの聖なるいけにえを感謝してささげます。

あなたの教会のささげものを顧み、

まことの和解のいけにえとして認め、受け入れてください。

御子キリストの御からだと御血によってわたしたちが養われ、

聖霊に満たされて、キリストのうちに、

一つのからだ、一つの心となりますように。

のうちに、またその部分のうちに全体として現存されます。したがって、パンを裂いてもキリストが分割されることはありません。

記念とは、聖書的には、過去の出来事を単に想起することではなく、神が人間のために行われた偉大なわざを宣言することを意味します。これらの出来事を祝う典礼祭儀の中で、出来事は何らかの形で現存し、現在化されます。

記念(アナムネシス)で教会は、イエス・キリストの受難、復活、昇天の記念を行い、私たちを御父と和解させてくださる御子のささげものを御父にささげます。

しかし教会は、信者が汚れのないいけにえをささげるだけでなく、自分自身をささげることを学び、キリストを仲介者として、日々神との一致と相互の一致の完成に向かい、ついには神がすべてにおいてすべてとなるようにと意図しています。

聖霊によってわたしたちを、
あなたにささげられた永遠の供えものとしてください。

選ばれた人々、神の母おとめマリアと聖ヨセフ、
使徒と殉教者、（聖〇〇〇〇〇〇）

すべての聖人とともに神の国を継ぎ、

その取り次ぎによってたえず助けられますように。

わたしたちの罪のゆるしとなるこのいけにえが、
全世界の平和と救いのためになりますように。

地上を旅するあなたの教会、 教皇〇〇〇〇〇〇、

わたしたちの司教〇〇〇〇〇、

司教団とすべての奉仕者を導き、

あなたの民となったすべての人の信仰と愛を強めてください。

あなたがここにお集めになったこの家族の願いを

聞き入れてください。

いづくしみ深い父よ、

あなたの子がどこにいても、

すべてあなたのもとに呼び寄せてください。

◆ 死者のための祈り

亡くなったわたしたちの兄弟姉妹、

また、み旨に従って生活し、いまはこの世を去った

すべての人を、あなたの国に受け入れてください。

わたしたちもいつかその国で、

いつまでもともにあなたの栄光にあずかり、

喜びに満たされますように。

取り次ぎの祈りで教会は、この祭儀が天
と地の全教会、生ける人、死せる人、ま
た教会の牧者である教皇、ミサ聖祭が行
われている教区の司教、その司祭と助
祭、ならびに全世界のすべての司教とそ
の司教のもとにある教会との交わりのう
ちに行われていることを表明します。

(きょう、)この世からあなたのもとに召された
○○○○を心に留めてください。

洗礼によってキリストの死にあずかった者が、
その復活にもあずかることができますように。

キリストは死者を復活させるとき、

滅びゆくわたしたちのからだを、

ご自分の栄光のからだに変えてくださいます。

また、亡くなったわたしたちの兄弟姉妹、

み旨に従って生活し、いまはこの世を去ったすべての人を、

あなたの国に受け入れてください。

わたしたちもいつかその国で、いつまでも

ともにあなたの栄光にあずかり、喜びに満たされますように。

そのときあなたは、わたしたちの目から涙をすべてぬぐい去り、

わたしたちは神であるあなたをありのままに見て、

永遠にあなたに似るものとなり、

終わりなくあなたをたたえることができますのです。

わたしたちの主イエス・キリストを通して、

あなたはすべてのよいものを世にお与えになります。

◆ 栄唱

司祭

キリストによってキリストとともにキリストのうちに、
聖霊の交わりの中で、

全能の神、父であるあなたに、

すべての誉れと栄光は、

世々に至るまで、

会衆

アーメン。

奉献文を結ぶ**栄唱**を通して教会は、最高の賜物としていただいたイエス・キリストの御体と御血を父である神にささげて、神を完全に礼拝します。

会衆は応唱「アーメン」によって、イエス・キリストのいけにえにあずかり、自分自身を神にささげます。それは、奉献文全体の集大成のようなものです。

交わりの儀（コムニオ）

◆ 主の祈り

司祭

主の教えを守り、みことばに従い、
つつしんで主の祈りを唱えましょう。

会衆

天におられるわたしたちの父よ、
み名が聖とされますように。

み国が来ますように。

みところが天に行われるとおり、

地にも行われますように。

わたしたちの日ごとの糧を今日もお与えください。

わたしたちの罪をおゆるしください。

わたしたちも人をゆるします。

わたしたちを誘惑におちいらせず、

悪からお救いください。

◆ 副文

司祭

いつくしみ深い父よ、すべての悪からわたしたちを救い、
世界に平和をお与えください。

あなたのあわれみに支えられて、罪から解放され、

すべての困難に打ち勝つことができますように。

わたしたちの希望、救い主イエス・キリストが

来られるのを待ち望んでいます。

会衆
国と力と栄光は、永遠にあなたのもの。

人間は、主イエス・キリストを受け入れ、主に従いながら、自分自身をイエス・キリストにささげることによって、主の愛のいけにえにあずかります。こうして、人は、イエス・キリストと交わることによって、父である神ご自身と交わり、永遠の命である神との一致が実現されます。その意味で、**交わりの儀**においてキリストのからだである聖別されたパンを拝領することによるキリストとの交わりが、ミサの重要な目的であるだけではなく、人生の目的でもあるのです。

「主の祈り」は、神の心（望み）を表すので、それを唱えることによって、私たちは、自分の心を神の心に合わせます。

この祈りの中では日ごとの糧が求められています。キリスト信者には日ごとの糧は、特にキリストのからだにおいて与えられます。

また罪から清められるように祈り求められます。それは、聖なるものが、真に聖なる者に与えられるようにということです。その意味で、ミサの中で唱えられるこの祈りは、聖体拝領の直接の準備でもあるのです。

◆ 教会に平和を願う祈り

司祭 主イエス・キリスト、あなたは使徒に仰せになりました。

「わたしは平和を残し、

わたしの平和をあなたがたに与える。」

主よ、わたしたちの罪ではなく、教会の信仰を顧み、

おことばのとおり教会に平和と一致をお与えください。

あなたはまことのいのち、

すべてを導かれる神、世々とこしえに。

会衆 アーメン。

◆ 平和のあいさつ

司祭 主の平和がいつも皆さんとともに。

会衆 また あなたとともに。

司祭 互いに平和のあいさつをかわしましょう。

☆（一同は平和と一致と愛を示すために、手を合わせ、

「主の平和」と言つて互いに礼をする。）

◆ 平和の賛歌

先唱 世の罪を取り除く神の小羊、

会衆 いくしみをわたしたちに。

先唱 世の罪を取り除く神の小羊、

会衆 いくしみをわたしたちに。

先唱 世の罪を取り除く神の小羊、

会衆 平和をわたしたちに。

私たちが主の平和を受けるのは、それを他の人に伝えるためです。キリストのからだである聖別されたパンをいただく前に互いに兄弟姉妹との和解と一致を祈ります。

平和の賛歌は、会衆が神の小羊をたたえる賛歌です。一致と愛のしるしである聖別されたパンを裂く間、参加者は平和を求めて歌います。

◆ 拝領前の信仰告白

司祭

世の罪を取り除く神の小羊。

神の小羊の食卓に招かれた人は幸い。

会衆

主よ、わたしはあなたをお迎えするに

ふさわしい者ではありません。

おことばをいただだけで救われます。

◆ 拝領

☆（会衆着席）

司祭

キリストの御からだ。

拝領者

アーメン。

◆ 拝領後の感謝

☆（拝領後、着席して沈黙のうちにしばらく祈る。）

◆ 拝領祈願

☆（会衆起立・聖書と典礼」のしおりを参照ください）

司祭

・・・祈りましょう。（しばらく沈黙のうちに祈る）

・・・わたしたちの主イエス・キリストによって。

会衆

アーメン。

聖体拝領は、洗礼を受けたカトリック信者で心の準備のできた（ゆるしの秘跡によって神と和解された）方に限られています。

キリストのからだを受けることによって信者は、キリストと一つになるために、キリストを受け入れたい、また自分をキリストに奉獻したいという望みを表すと同時に、それを約束します。その意味で聖体拝領は、洗礼を受けたときに、神と結んだ契約の更新になっていますので、洗礼を受けた人に限られているのです。

聖体拝領後に、聖体によるキリストとの交わりの恵みを感謝します。

閉祭

◆ お知らせ

◆ 派遣の祝福

司祭 主は皆さんとともに。

会衆 また あなたとともに。

司祭 全能の神、父と子と聖霊の祝福が

皆さんの上にありますように。

会衆 アーメン。

◆ 閉祭のあいさつ

司祭 感謝の祭儀を終わります。

行きましょう、主の平和のうちに。

会衆 神に感謝。

◆ 閉祭の歌

◆ 退堂

☆ (会衆着席)

☆ (会衆起立)

派遣の祝福は、キリストから頂いた使命を果たすための力を与えるイエス・キリストご自身の祝福です。

参加者は、神を賛美し、たたえながらそれぞれの生活の場でキリストに従い、キリストの救いをのべ伝えるために派遣されたことを意識し、感謝します。



カトリック吉祥寺教会

〒180-0005 東京都武蔵野市御殿山1-7-8

tel: 0422-44-0181 fax: 0422-44-0180

ウェブサイト : <https://svdtokyo.jp/>



ミサ次第 online:
THE ORDER OF MASS online:
LITURGIA DA MISSA online:
Nghi Thức Thánh Lễ online:



<https://lumen-christi.com/mass>